

○ 単元「職場体験をしよう」（寄島小学校）

1 単元指導計画

1-1 単元「職場体験をしよう」（全31時間）

担当者 石田満彦 平井 惇 佐藤敏子

1-2 単元設定の理由

（1）子どもの実態

総合学習については、「6年生になったら職場体験ができる。」という意識があり、どの子どもも職場体験に夢をふくらませている。しかし、昨年度まで職場体験を経験してきた先輩からの情報や興味・関心だけで職場を選ぼうと考えたり、電話一本ですぐに体験に行けると考えたりしている子どもがほとんどで、自分を見つめ、進路について深く考えたり、職場体験をするためには、様々な準備や解決すべき問題点があるということに気付いたりしている子どもは少ない。

（2）教師の願い

本単元では、まず、各自で職業調べを行い、身の回りには多くの職業があることやそこで働く人は、いろいろな苦労や工夫をしていることに気付かせたい。そして、このために、2人の職業人を学校に招き、苦労や工夫、働くことのすばらしさや意義に触れた話をしていただくことによって、子ども一人一人が、目的意識をはっきりともって職場体験にのぞむことができるようにしたい。実際の職場体験では、与えられた仕事に取り組んだり、そこで働く人の仕事ぶりや生き方・価値観に触れたりする中で、その職場の苦労や工夫を知り、労働の厳しさやすばらしさを実感するとともに、働くことの意義について気付くようになって欲しい。（『内容系列表』自己・進路 5・6年ア・イ）。また、あいさつや返事、言葉遣いなどの礼儀・作法など、社会生活に必要な習慣、技能も身につけて欲しい。そして、これらのことを、体験後の振り返りや友達との情報・意見交換によって、より確かな理解や技能となるようにしていきたい。さらに、単元を通して、自分の長所や短所と進路とを結びつけて考えたり、今までの自分を見つめ直し、今後の生活に生かしたりすることができるようにしたい。そして、自分を支えてくれている人々との関わりについても再認識できるようにしていきたい。（『内容系列表』自己・進路 5・6年ウ）

1-3 単元の目標

職業調べや職場体験を通して、働いている人の苦労や工夫、働くことのすばらしさや意義を理解するとともに、自分の長所・短所や進路について考えて、今後の生活に生かすことができる。

1-4 単元の評価規準

○ 関心・意欲・態度

- ① いろいろな職業を調べ、自分に合った体験場所を見つけようとする。

② 目的意識をもって意欲的に職場体験に取り組み、深く自分を見つめ直そうとする。

○思考・判断

① 自分の長所・短所と進路を結びつけて考える。

② 職場体験を通して、自分を見つめ直し、今後の自分の生活について考える。

○技能・表現

① 目的に応じて様々な方法で情報を収集したり、相手意識や目的意識をもって発表したり聞いたりすることができる。

② 様々な人々と接する中で、社会生活に必要な習慣や技能を身につけることができる。

○知識・理解

① 職業調べや職場体験を通して、働いている人の苦勞や工夫、働くことのすばらしさ、働くことの意義について理解する。

1-5 学習過程と評価計画

学 習 活 動	支 援	評 価 規 準				評 価 資 料
		関 心 意 欲 態 度	思 考 判 断	技 能 表 現	知 識 理 解	
<p>1 自分の興味や関心のある職業について調べる。 《6》</p> <p>① 自分の興味や関心のある職業について、資料を探して調べる。 (3)</p> <p>② 調べた職業について発表する。 (2)</p> <p>③ 友達の発表や自分の職業調べを通して、学んだことや考えたことをまとめる。 (1)</p>	<p>・「仕事の内容」「苦勞」「工夫」については、必ず調べるように指示する。</p> <p>・図書館司書に連絡して、職業に関する図書をあらかじめ集めてもらっておく。</p> <p>・インターネットの検索に手間取っている児童がいれば、援助する。</p> <p>・調べた職業の中で、特に興味や関心のあったものを1つだけ発表するようにする。</p> <p>・机間相談によって、身の回りには、様々な職業があることやその職業に携わる人々は、いろいろな苦勞や工夫をしていることに気付くことができるようにする。</p>	①				<p>調べている場面の観察</p> <p>調べたことを発表している場面の観察</p> <p>感想用紙</p>
<p>2 先輩の話を聞き、職場体験の意義について考える。 《2》</p>	<p>・地元で活躍されている職業人2人の方に、苦勞や工夫、働くことのすばらしさや意義に触れての話をしてもらおうように依頼しておく。</p> <p>・話を聞いて、自分の長所・短所や進路について考えた後で、職場体験に対してははっきりとした目的をもっているか、1対1での対話をしながら適切な助言をする。</p>	①	①			<p>対話</p> <p>わくわくノート</p>
<p>3 職場体験をする場所を決める。 《8》</p> <p>① 体験場所を第3希望まで考える。 (2)</p> <p>② 交渉のために必要な事柄を考え、まとめる。 (4)</p> <p>③ 友達同士で交渉の練習をする。 (1)</p> <p>④ 電話で交渉し、必要なことを聞く。 (1)</p>	<p>・断られる場合を考えて、第3希望まで決めるよう指示する。</p> <p>・安易に決定しようとする児童や決定できにくい児童には、適切な支援をする。</p> <p>・交渉の時に気を付けることや考えておかなければならないことなどをじっくりと考えることができるように、時間を十分に取って、助言コーナーも設ける。</p> <p>・友達同士で交渉の練習をする。ことによっては、話し方や話の内容や自分の悪いところや修正することができるようにする。</p> <p>・職員室の電話を使って、各自で希望する職場に交渉する。その時、相手方の承諾を得て、電話をスピーカーに設定し、相手の声が聞こえるようにして、話の内容が把握できるようにする。</p>		①			<p>職場体験をする場所を考えている場面での対話</p> <p>わくわくノート</p> <p>練習をしている場面の観察</p> <p>交渉をしている場面の観察</p>
<p>4 職場体験の実践をする。 《6》</p> <p>【約20カ所の職場】</p>	<p>・体験の様子を把握するために3人の教師で分担して職場を訪ねて回る。</p> <p>・体験する職場の人に、自分の成績表を各自で渡し、仕事ぶりや態度などについて評価してもらおうとともに、帰宅後、体験評定カードに記入しておくように指示しておく。</p>	②	①	②		<p>職場体験をしている場面の観察</p> <p>仕事通知表</p> <p>体験評定カード</p>
<p>5 職場体験の実践を通して、学んだことを各自で振り返り、発表資料にまとめる。 《6》</p> <p>① 職場体験の実践を通して、学んだことや考えたことを整理しながら、各自で振り返る。 (4)</p> <p>② 振り返ったことを発表するために資料にまとめる。 (2)</p>	<p>・体験を振り返る時間を十分に取って、相談・助言コーナーを設けたり、個別指導を行ったりして、体験を通して学んだことや考えたことを各自でまとめていくことができるようにする。</p> <p>・働いている人の苦勞や工夫、働くことのすばらしさや意義、自分の長所・短所や進路については、特に深く見つめ直すことができるよう、個に応じた適切な支援を行う。</p> <p>・各自で振り返ったことを、相手に分かりやすく簡潔に伝える資料を工夫して作るように、構成や内容について支援する。</p>		②		①	<p>振り返りカード</p> <p>発表資料</p>
<p>6 各自の職場体験を発表し、情報交換や意見交換を行う。 《3》</p>	<p>・さらに学びを高めることができるようにするために、自分の体験と比較することを重点に友達の発表を聞くよう指示する。</p>		②	①	①	<p>発表している場面の観察</p> <p>感想カード</p>

1-6 評価資料(略)

1-7 評価基準表

学 習 活 動	評価規準	学習活動における 具体的な評価規準	評価資料	評 価 基 準		
				3	2	1
1① 自分の興味や関心のある職業について、資料を探して調べる。	関心・意欲・態度①	自分の興味や関心のある職業について、進んで調べている。	・調べている場面の観察	進んでいろいろなる資料を探して自分の興味や関心のある10種類以上の職業について調べている。	自分の興味や関心のある5種類以上の職業について、資料を探して調べている。	自分の興味や関心のある職業について、1～4種類しか調べていない。
1② 調べた職業について発表する。	技能・表現①	調べた職業の「仕事内容」「苦労」「工夫」について発表している。	・調べたことを発表している場面の観察	調べた職業について3つのポイントを漏れなく、発表している。	調べた職業について、2つのポイントを発表している。	調べた職業について、1つのポイントしか発表していない。
1③ 友達の発表や自分の職業調べを通して、考えたことや感じたことをまとめる。	知識・理解①	「身の回りには、様々な職業があること」「その職業に携わる人々は、いろいろな苦労や工夫していること」について感想に書いている。	・感想用紙	両方のポイントについて感想を書いている。	2つのポイントのうち、1つについて、感想を書いている。	ポイントに触れての感想が書けていない。
2 先輩の話を聞き、職場体験の意義について考える。	思考・判断①	自分の長所・短所と進路とを結びつけて書いている。	・わくわくノート	自分の長所・短所と進路とを結びつけ、さらに今後のめあても書いている。	自分の長所・短所と進路とを結びつけて書いている。	自分の長所・短所と進路とを結びつけて書けていない。
3① 体験場所を第3希望まで考える。	関心・意欲・態度① 思考・判断①	職場体験の目的をはっきりともっている。 体験場所を理由をつけて第3希望まで考えている。	・対話 ・職場体験をする場所を考えている場面での対話	体験する具体的な目的を3つ以上話している。 体験場所を選んだ理由をそれぞれ複数話している。	体験する具体的な目的を2つ話している。 体験場所を選んだ理由をそれぞれ1つ話している。	体験する具体的な目的を1つしか話していない。 選んだ理由が話せていない体験場所がある。
3② 交渉のために必要な事柄を考え、まとめる。	技能・表現①	交渉のために必要な事柄(目的、期日、時間、仕事内容)をノートに書いている。	・わくわくノート	交渉のために必要な4つの事柄以外にも言葉遣い等をノートに書いている。	交渉のために必要な4つの事柄を漏れなくノートに書いている。	交渉のために必要な事柄を1つしかノートに書いていない。
3③ 友達同士で交渉の練習をし、修正する。	技能・表現②	友達同士で交渉の練習をし合い、内容面や話し方について修正している。 職場体験について交渉し、必要なこと(集合時刻、服装、持参物)を聞いている。	・練習をしている場面の観察 ・交渉している場面の観察	自分だけでなく、相手の内容面や話し方についても修正しながら練習している。	自分の内容面や話し方について修正しながら練習している。	修正するところを指示されなければ見つけられない。
3④ 電話で交渉し、必要なことを聞く。	技能・表現②			交渉し、必要なことを聞いて確認している。	交渉し、必要なことを聞いて確認している。	交渉するが、必要なことを十分聞いていない。

4 職場体験の実践をする。	関心・意欲・ 態度②	意欲的に職場体験に取り組んでいる。	・職場体験をしている場面の観察	進んで職場の人と関わりながら、与えられた仕事以外の仕事も進んでしようとしている。	与えられた仕事を最後まで手を抜かずに取り組んでいる。	与えられた仕事にまじめに取り組んでいない。
5① 職場体験の実践を通して、学んだことや考えたことを整理しながら、各自でふり返る	思考・判断① 技能・表現②	自分の仕事を振り返って自己評価をしている。 あいさつ・返事・言葉遣いが正しくでき、職場の人とコミュニケーションがとれている。	・体験評価カード ・仕事通知表	自分の体験場所の選択が正しかったかどうかについての反省点を書いている。 気持ちのよいあいさつ・返事や適切な言葉遣いができ、積極的に職場の人と関わっている。	観点に合わせて自分の職場体験の評価をし、感想も書いている。 あいさつ・返事・言葉遣いが正しくでき、何らかの形で職場の人と関わっている。	評価はしているが、感想が書けていない。 あいさつ・返事・言葉遣いが正しくできず、自分から職場の人との関わる事ができない。
5② 振り返ったことを発表するために資料にまとめるとめる。	思考・判断② 知識・理解①	職場体験を通して、自分を見つめ直し、これからの自分の生活の仕方を考えている。 体験した職場の「苦労や工夫」「働くことのすばらしさ」「労働の意義」について理解している。	・振り返りカードの4 ・振り返りカードの1・2・3	これからの生活の仕方について3つ以上考えている。 3つの観点全てについて、体験した仕事と関係付けて記述している。	これからの生活の仕方について2つ考えている。 3つの観点のうち、2つについて、体験した仕事と関係付けて記述している。	これからの生活の仕方について1つしか考えていない。 3つの観点のうち、1つしか体験した仕事と関係付けて記述していない。
6 各自の職場体験を発表し、情報交換や意見交換を行う。	技能・表現① 知識・理解①	振り返った内容を分かりやすく整理して資料にまとめている。 自分の学びや考えと比べながら聞き、自分自身やこれからの自分の生活について考えている。 自分の振り返ったことを分かりやすく発表することができている。	・発表資料 ・感想カードの1 ・発表している場面の観察	振り返った内容を3つの観点全てについて分かりやすく整理して資料にまとめている。 友達の見聞や意見を聞いて、「自分」「今後の生活」の両方について、振り返りカードに付け加えて見直している。 資料にないことも付け加えながら、自分の振り返ったことを発表している。	振り返った内容の内、2つの観点について分かりやすく整理して資料にまとめている。 友達の見聞や意見を聞いて、「自分」「今後の生活」のいずれかについて振り返りカードに付け加えて見直している。 資料に沿って、自分の振り返ったことを発表している。	振り返った内容の内、1つの観点しか分かりやすく整理して資料にまとめられていない。 友達の見聞や意見を聞いての感想だけを書いている。 資料を生かした発表をしていない。
		働くことの「苦労や工夫」「すばらしさ」「意義」について理解している。	・感想カードの2	3つのポイントが全ての職業にあてはまることを書いている。	3つのポイントのうち、1～2のポイントが全ての職業にあてはまることを書いている。	感想しか書いていない。

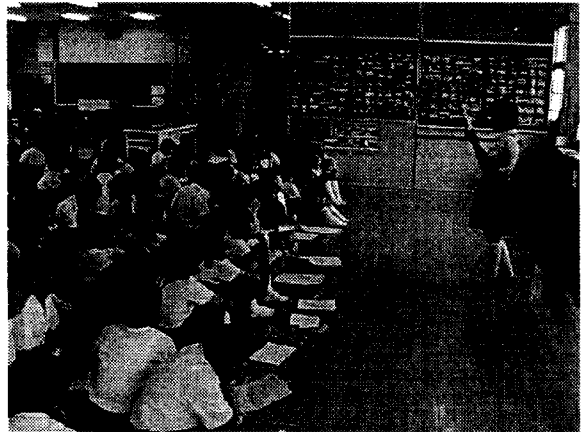
2 授業と評価の実践

2-1 指導と評価の一体化の実践

(1) 学習活動1 自分の興味や関心のある職業について調べる。

① 指導・学習の過程

前年度に行ったボランティアやみんなで楽しむ行事などの活動も提案されたが、本校で、数年来行っている職場体験をしたいという思いをもつ子どもが大多数を占め、今年度の総合学習の柱が決定された。職場体験をするに当たっての準備についての話し合いでは、仕事をさせてもらうには、何を考え、何をしなければならないのかということに焦点が集中し、「学校長の許可がある。」「仕事先へのお願いがある。」「職場に依頼する際の原稿がある。」「職場の人を納得させるための理由がある。」など、様々な意見が出された。しかし、まずは、いろいろな職業について調べる必要性をどの子どもも感じており、最初の活動は、職業調べとなった。図書室の本やインターネットなどを使って、子どもたちは、たくさんの職業について調べ、その内容、工夫や苦勞、やりがいなどについて、よく理解することができた。また、自分が将来就きたい職業とも考え合わせながら、みんなの前で、自分の調べた職業について、くわしく発表することができた。



職業調べの発表会

② 評価結果

職業を調べたり、それを発表している場面の観察から評価した結果、以下のようになった。

評価の観点	学習活動における 具体的な評価規準	評価結果		
		3	2	1
関心・意欲・態度①	自分の興味や関心のある職業について、進んで調べている。	39人	20人	0人
技能・表現①	調べた職業の「仕事内容」「苦勞」「工夫」について発表している。	32人	25人	2人

③ 指導の改善と実施

様々な職業を調べるに当たって、図書室のたくさんの職業に関する本を司書の先生の協力を得て用意したことにより、自分の関心のある職業だけでなく、10種類以上の職業について、詳しく調べている児童が数多くいた(39人)。さらに、仕事内容のみならず、児童に探求してほしいと考える、仕事の工夫や苦勞、喜びについても記述してある本を選択した結果、半数を越える子どもたちが、3つの観点を逃すことなく発表できていた(25人)。

思いも持っているが、人前では緊張して言葉の出にくい子ども10人には、課外で個別指導を行い、内容面や話し方などについて適切な指導を行った。その結果、評定1の子どもを2人までにすることができたと考える。残った2人の評定1の子どもに対しても、そのがんばりを称揚した。

全員の発表後に、感想用紙を配り、友だちの発表や自分の職業調べを通して学んだことや考えたことをまとめるようにした。そして、机間指導によって、身の回りには、様々な職業があることやその職業に携わる人々は、いろいろな苦勞や工夫をしていることに気付くことができるようにした。

感想用紙 (活動1-③の評価資料)

輝け6年 未来に向かって 7月2日(火) 3組 氏名()

活動内容	活動態度の反省(◎, ○, △, ×で)	感想
○職業調べ	<ul style="list-style-type: none"> ・時間いっぱい一生懸命調べたか? (◎) ・多くの職業について調べられたか? (◎) ・資料が上手に活用できたか? (◎) ・ノートにうまくまとめられたか? (◎) ・発表資料は上手にできたか? (○) 	職業調べは、ノート約3ページぐらいできました。ていねいにまとめられたのでよかったです。発表資料も見やすくできました!!
○職業発表(自分)	<ul style="list-style-type: none"> ・大きな声で発表できたか? (○) ・ゆっくりはっきり発表できたか? (△) ・調べたことが伝わる発表だったか? (△) ・自分の資料の内容で直したらよい点を見つけられたか? (△) 	発表のとき、早口でうまく言えませんでした。みんなに伝わってなかったと思いました。これから大きな声で言えたのでよかったです。
○職業発表(友達)	<ul style="list-style-type: none"> ・真剣に友達の発表が聞けたか? (○) ・発表内容をしっかり聞き取ったか? (○) ・友達の発表の良い点を見つけたか? (△) ・自分の発表と比べながら友達の発表を聞くことができたか? (○) 	佐藤さんの発表がよかったです。おもしろかったです!!大きな声で、はっきりと分かりやすく言っていたので、よかったです!!他の人も、大きな声で言っていたので、よかったです。

☆未来に向かって前進しようとしているあなたは、多くの職業について調べたり、聞いたりする中で、どんなことを学びましたか?

全部の職業が、かんたんになれるというわけではないと思ったので、もっとくわしく職業を調べた方がいいと思いました!
 1つの職業にはいろいろな努力や苦勞があるんだなあと思いました。
 全部の職業はかんたんそうに見えるけど、すごく大変なんだなあと思いました。

① 評価結果

友だちの職業調べの発表を聞いての感想カードの記述の内容から評価した結果、以下のようになった。

評価の観点	学習活動における 具体的な評価規準	評価結果		
		3	2	1
知識・理解①	「身の回りには、様々な職業があること」「その職業に携わる人々は、いろいろな苦労や工夫をしていること」について感想に書いている。	28人	30人	1人

⑤ 指導の改善と実施

友達の発表を聞いての感想においては、たくさんの友達の発表を聞くことによって、ほとんどの児童が様々な職業を知り、いろいろな職業から自分に合ったそれを選択できる希望をもつのみならず、仕事の苦労あるいは工夫・努力をも理解することができた。評定1の子どもに対しては、対話を通して個別指導を行うことにより理解することができた。

(2) 学習活動2 先輩の話聞き、職場体験の意義について考える。

① 指導・学習の過程

学年当初の総合学習の大筋が職場体験と決定された時より、子どもたちの中から、「職場体験をした先輩から、その体験を聞きたい。」「先輩から、職場体験をする上で気をつけることを聞きたい。」という意見が既にあったので、教員側が用意した2人の職業人の話を聞くことに、すぐに同意、賛成した。

職業人の一方の方は、真に自分にあった職業を選択することが、自分の幸福であることを、他方の方は、今、自分に与えられた仕事を遂行する中で、全力で工夫や努力をしていること、そのための心構えについて、それぞれ強調して話をしてくださり、前者の話は、児童たちに、自らの長所、

短所を考慮しながら職業を選択し、そのために努力することについて、後者の話は、苦労や工夫の中に、喜びがあるという自らが就いた仕事の中の希望について、熱心に説いてくださり、子ども



職業人の方の話

たちは、お二人の話を真剣に聞き入っていた。

その後、自分の長所・短所と進路について書いたり、教師との対話を通して職場体験の目的をはっきりさせたりする中で、体験の意義について考えることができた。

② 評価結果

職業人の方のお話を聞いた後のノートの記述や教師との対話から評価した結果、以下のようになった。

評価の観点	学習活動における 具体的な評価規準	評 価 結 果		
		3	2	1
思考・判断①	自分の長所・短所と進路について書いている。	15人	38人	5人
関心・意欲・態度①	職場体験の目的をはっきりと持っている。	27人	29人	2人

③ 指導の改善と実施

お願いしたお二人の方と、学習の意図について、話していただきたい言説の内容について、十分に打ち合わせをした結果、お二人の方が、それぞれに個性ある、適切な話をしてくださり、子どもたちは、職業の選び方、仕事の意義やすばらしさについて、間接的ながら知ることができ、また、これから行おうとしている職場体験において留意すべきこと、学ぶべきことについて、十分に理解することができていた（53人）。そこで、この段階で、自分を深く見つめて進路について考えるようにしたが、まだ、自己や進路について結びつけて考えることができなかった。結びつけることはできなくても、それぞれについて考えていればよいと判断し、職場体験の目的について教師と対話する活動に移った。ほとんどの子どもたちが実践したいという意欲を強くもっていたので、その目的についても2つ以上はきはきと答えることができた（56人）。目的が1つしか言えなかった子ども2人に対しては、教師の問いかけによって2つ以上の目的を言うことができた。

(3) 学習活動3 職場体験をする場所を決める。

① 指導・学習の過程

職場調べをしたり、先輩の話を聞いたりして、いよいよ自分達の体験場所を考える時が来た。相手に断られる場合を考えて、子どもの同意も得て第3希望まで書かせた。もし、第3希望の職場になっても意欲をもって体験できるように投げかけて、第3希望まで真剣に考えるよう仕向けた。今までの学習活動から、自分の長所・短所と進路を結びつけて考えてきたので、ほとんどの子どもが第3希望までの職場を理由付けて選ぶことができた。

② 評価結果

第3希望までの職場を考えて選んだ理由を教師と対話しながら評価した結果は次のようになった。

評価の観点	学習活動における 具体的な評価規準	評価結果		
		3	2	1
思考・判断①	体験場所を理由をつけて第3希望まで考えている。	19人	38人	2人

③ 指導の改善と実施

第3希望までの職場選びは、ほとんどの子どもはできたが、3つ選ぶということに戸惑っている子には電話帳や、昨年度の6年生が職場体験をした写真集などを参考にするように助言した。

教師との対話ではほとんどの子どもが選んだ理由をたくさん話していた(57人)が、理由が1つしか言えない子ども(2人)に対しては、教師が問いかけをして気付くような支援をした。その後、希望する職場の承諾をいただくための交渉準備として、電話のかけ方を考えることから取りかかった。まず、交渉に必要な事柄を考えてわくわくノートにその手順を考えていった。交渉の時に気をつけることや、考えておかなければならないことなど、じっくり考えることができるように十分な時間を取り、助言コーナーも設けておいた。

交渉のために必要な事柄をまとめたノート（活動3-②の評価資料）

④電話 交渉準備⑧～Goodluck～
 ☆担当者がでた場合
 ◎タキモト動物病院ですか？
 寄島小学校の6年生の
 すが、タキモト先生ですか？
 ≪はい≫
 私達6年生は、今年職場体験を
 することに なりました
 ≪私、動物病院に行きたい
 と思います。電話させていただき
 ました。今、お時間いいですか？≫
 私、しょう来、動物関係の仕
 事がしたいなと思、て、タキ
 モト動物病院の先生は、とても
 動物にやさしくて、すごいなど
 思、っていたので、私も、先生み
 たいになりたいなと思、ってタキ
 モト動物病院にしました。
 できわば、動物の命の金がいくら
 けいどうでしょうか

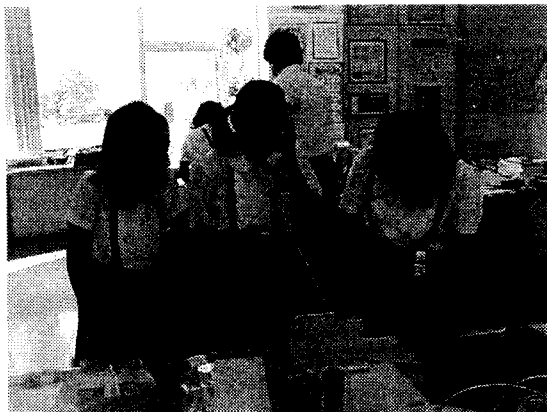
≪どういうことがしたいの？≫
 そうじなど、私でもできる仕事
 ならなんでもやらさせていただきます。
 ≪そーですか？≫
 できれば18日がいいんです
 けどどうでしょう？
 ≪うーん、じゃあ、18日がいいです
 か？≫
 はい、ありがとうございます。
 じゃあ、18日に職場体験をしに
 うかがわせていただきます。本当
 にありがとうございます。
 ≪すぐには、答えがでないんで
 すけど≫
 じゃあ、また、電話させていた
 できます。
 ≪ダメですわー≫
 あ、そうですが、いそがしいと
 ころ、お時間いただきました。す
 いませ。ありがとうございます。
 3:10に電話したら3:20に電話が来た

☆担当者以外が電話にでたとき
 ◎タキモト⑧ですか？
 寄島小学校の6年生の
 すが、今お時間いいですか？
 ≪今、担当者がいないんで≫
 そうですが、いつおもどりにな
 られますか？
 ≪～時くらいだと思、います≫
 ではその時間にまたお電話させ
 ていただきます
 ≪おそがしいところすみませんでした。
 ≪分からないんですけど≫
 そうですが、では、またでんわ
 します。
 ☆いまいそがしいといわれたら
 では、ぶっくらいいが、いいでし
 ょうか。
 ≪～時くらいがいいですわ≫
 ではその時間にお電話させて
 いただきます。
 おいそがしいところすみませんでした。

大体ノートに書き終わったころから、友達同士で練習をしていった。友達の交渉内容を聞いて、友達のよいところや、自分の不十分さに気付いたり、お互いに批評し合ったりして修正していき、ますます内容豊かになっていった。

いよいよ職員室で交渉開始。各事業所には、前もって教師の方から電話の交渉をしていたが、子どもには、そのことは知らせてないので、真剣そのものであった。

電話交渉は、相手方の承諾を得て電話をスピーカーに設定し、相手の声が聞こえるようにしていた。同じ職場を複数で体験するグループは代表児童が電話をすることにした、他の子どもはスピーカーで聞こえる電話のやり取りを聞いているので、同じ緊張感を感じていた。子どもたちは何回も練習をしてきた成果があつて、運よくすぐにOKがもらえた子、断られた子などと、職員室は悲喜こもごもであったが、第2・第3希望まで粘り強く交渉して、60人全員が体験場所を決定することができた。



電話での交渉の様子

④ 評価結果

交渉の練習をしている場面や、実際に電話で交渉している場面の観察から評価した結果次のようになった。

評価の観点	学習活動における具体的な評価規準	評価結果		
		3	2	1
技能・表現①	交渉のために必要な事柄(目的, 期日, 時間, 仕事内容)	33人	23人	3人
技能・表現②	友達同士で交渉の練習をし合い, 内容面や話し方について修正している。	32人	24人	3人
技能・表現②	職場体験について交渉し, 必要なこと(集合場所・服装・時間・持参物)を聞いている。	59人	0人	0人

⑤ 指導の改善と実施

交渉の手順や話す内容をわくわくノートに書くという作業に十分時間をかけたので、友だちとの練習でかなり自信をつけて本番の交渉に取り組めた。交渉に必要な4つの事柄(目的・期日・時間・仕事内容)だけでなく、言葉遣いなどにも気がつくようになった(56

人)。ノートを見ながら友達同士交渉の練習をし、そこでまた修正がなされ、お互いに友達の内容面まで修正していた(56人)。机間相談をしながら、交渉のために必要な事項がそろっていない子どもや、話し方について修正が必要と思われる子どもには、教師が練習相手になって、不備な項目を逆に質問することによって気付くようにした。4時間もの練習成果があってほとんど全員の子どもの自信をもって交渉に臨めた。自分の電話交渉で決まるという自覚がひしひしと伝わり、体験に対する意気込みが感じられた。

電話での実際の交渉は、前もって教師が各事業所と連絡をしておき、承諾の有無を確認しておいた。しかし、承諾していただけなかった事業所にも、子どもには知らせず、事業主の方には、はっきり理由をつけて断っていただくようお願いしていた。断られるのも貴重な体験として取り入れていった。断られた子どもたちは、次の事業所では、さらに念を入れて交渉しており、真剣さが感じられた。全員無事交渉ができて、教室に帰った子どもは、必要な4つのことがらを、わくわくノートにもれなく記入できていた(59人)。何事も体験を重視することを今回は大事にした。

(4) 学習活動4 職場体験を実践する。

① 指導・学習の過程

10月17日(木)に10箇所、18日(金)に12箇所と、2日間で計22箇所の職場を約半数ずつの子どもが体験をした。

朝5時からという職場もあって、かなり緊張してあまり寝られなかった子どももいたようである。教師3人は各体験場所へ時間差をつけながら訪ねて回った。デジカメ・カメラ・ビデオの3つの記録機器を持って、いっぱい記録に収めていった。当日は職場の方が先生であるので、励ましの声かけをして、仕事ぶりを記録させていただきにした。そのためにも、体験依頼書を持って伺ったとき、職場の方との打ち合わせで、子どもの実態とか希望をじっくり話して、当日はお任せすることにした。

商店で体験した子供は、常にお客様に「いらっしゃいませ。」と大きな声であいさつをするように指導され、普段



職場体験の実践の様子

学校では小さな声でしかできなかった子どもが、精一杯の声であいさつしている姿には感動するものがあった。

仕事時間はほとんどの子どもが1日7時間くらいだったので、後半部分を見回ったころには、とても緊張して疲れた様子であった。仕事通知表をいただいて帰り、まず学校へ帰宅の報告電話をし、そして自分も「体験評価カード」に自己評価して体験は終了した。

下のようになった。

評価の観点	学習活動における 具体的な評価規準	評 価 結 果		
		3	2	1
関心・態度・意欲②	意欲的に職場体験に取り組んでいる。	47人	13人	0人
思考・判断①	自分の仕事を振り返って自己評価している。	27人	33人	0人
技能・表現②	あいさつ・返事・言葉遣いが正しくでき、職場の人とコミュニケーションがとれている。	31人	26人	3人

③ 指導の改善と実施

自分で決めた職場なので、仕事に対する興味・関心は大きくどの子どもも意欲的に働いていた(60人)。

しかし、仕事は楽しい反面、かなりきつかった子もいたようである。働く時間が学校生活と違って長いということ、多くの子どもが、実際に体験してみて感じたようである。自己評価では、60人全員感想や反省点を書いていたが、中でも積極的な関わりかたがむずかしかったようである。

体験をするまでに、職場の方との打ち合わせが十分できていたので、こちらの意図をくんでくれて、接し方や仕事内容を考えてくださる職場が多かった。しかしこちらの意図が十分伝わらなかった職場も数か所あったので、体験後のお礼のあいさつ周りの時、その反省点を話して理解していただいた。

体験中の評価に関して、評価点が1の子どもが3名いたが、こちらの意図が強すぎたため、かなり厳しい目でみて評価して下さったようなので、意に反した仕事通知表をもらった子どもにはしっかりフォローした。わずか1日の短い職場体験であったが、働くということの意義、働くことの苦勞・工夫などかなり理解できたようである。

(5) 学習活動5 職場体験の実践を通して学んだことや考えたことを振り返り、資料にまとめる。

① 指導・学習の過程

職場体験の実践を終えた子どもたちは、すぐに友達同士で体験した仕事や職場の様子などについて興味深く情報交換を始めた。そして自然発生的に、どの子どもからも職場体験の発表会を開いて情報交換や意見交換をしたいという願いが出てきた。そこで、「何を友

達に伝えるのか。」と投げかけると、多くの子どもが体験前の各自の目的を想起し、その職場の苦労や工夫、働くことに対する感想や考えなどを体験した仕事と結びつけながら伝えるということにまとまった。こうして、体験を振り返る目的をはっきりとさせた上で、振り返りカードをもとに、学んだことや考えたことについて振り返った。

② 評価結果

職場体験の実践を終えて書いた「振り返りカード」の記述の内容から評価した結果、以下のようになった。

評価の観点	学習活動における 具体的な評価規準	評価結果		
		3	2	1
思考・判断②	職場体験を通して、自分を見つめ直し、これからの生活の仕方を考えている。	44人	15人	0人
知識・理解①	体験した職場の「苦労や工夫」「働くことのすばらしさ」「労働の意義」について理解している。	41人	18人	0人

③ 指導の改善と実施

振り返りカードの記述には、子どもの実態から全6時間のうち4時間を充てた。記述にあたって時間の目安を示したことと、どの子どもも目的意識をはっきりともって職場体験に臨んでいた結果、体験した職場の「苦労や工夫」「働くことのすばらしさ」「労働の意義」とこれからの生活の仕方について、じっくりと時間をかけ、自分の体験と結び付けて大変くわしく記述できていた。教師は、机間相談を中心に支援を行った。その中でまず、知識・理解の項目については、8人の子どもが、「働くことのすばらしさ」「労働の意義」の2点について、どのようなことを記述すればよいのかとまどっていたので、分かりやすく説明し、例を示しながら支援した結果、全員が2以上の評価になった(59人)。また、思考・判断の項目についても、5人の子どもが、これからの生活の改善点について1つしか記述できていなかったため、自分の短所や職場体験の反省点などについて尋ねた結果、これも全員が2以上の評価につながった(59人)。

次に、振り返りカードをもとに、じっくりと振り返った後、発表会に向けての資料作りに取りかかることになった。資料作りの時間は、かなりの個人差が予想されるため、まず、資料作成の時間を2時間と決めた。その上で資料を何で作成するかを考えるように指示した。その結果、パソコンでの資料作りが17人、画用紙が40人、模造紙が2人となった。また、資料が発表原稿にならないように、効果的な資料の例を示し説明した。さらに、内容面や技術面で支援できるように構想図を書かせることにした。こうして、コンピュータ

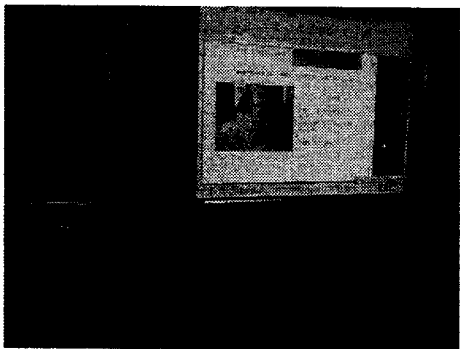
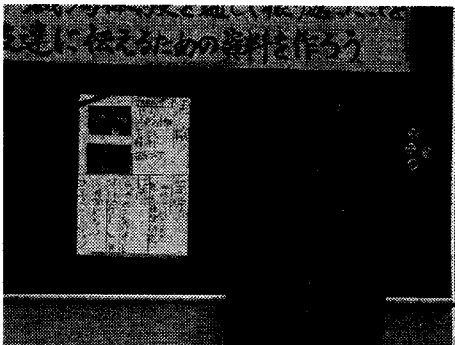
⑤ 指導の改善と実施

資料作りに当たって、作成の時間を事前に示したことで効果的な資料を例示して説明したことは、能率よく資料を作成する上で大変有効であったと考える。さらに、構想図を書かせてたことも清書までの適切な支援につながったと考える。しかし、短時間に全ての子どもの構想図に目を通し、指導や支援を行うことは大変困難で、不十分な点もかなりあった。特に、途中経過で評価1の子どもが10人を超えていたため、評価2以上の子どもに十分関われなかったことは反省点である。しかし、評価1の子どもに対しては、構想図の段階を中心に内容面や技術面について支援した結果、評価2にすることができた。最終的に評価1となった子どもには、課外に指導を行い、発表時に付け加える内容について助言した。

(6) 学習活動6 各自の職場体験を発表し、情報交換や意見交換を行う。

① 指導・学習の過程

職場体験の発表会に当たり、体験後の振り返りの記述や資料作成の様子や内容などについて称揚し、まず子どもに自信と発表意欲をもたせるようにした。そして、発表時の態度について簡単に指示を与えた後、いよいよ発表会をスタートした。パソコンで資料を作成した子どもの発表は、プロジェクターを活用してコンピュータ室で行った。多くの子どもが、発表原稿を作成していないのに、資料の内容以外のことも付け加えながら堂々と発表することが出来ていた。



職場体験発表会

② 評価結果

2時間にわたる全体の職場体験の発表からそれぞれを評価した結果、以下のようになった。

評価の観点	学習活動における 具体的な評価規準	評価結果		
		3	2	1
技能・表現①	自分の振り返ったことを分かりやすく発表することができる。	30人	28人	1人

④ 評価結果

「感想カード」の記述から評価した結果、以下のようになった。

評価の観点	学習活動における 具体的な評価規準	評 価 結 果		
		3	2	1
思考・判断②	自分の学びや考えと比べながら聞き、 自分自身やこれからの自分の生活に ついて考えている。	54人	5人	0人
知識・理解①	働くことの「苦勞や工夫」「すばら しさ」「意義」について理解してい る。	45人	14人	0人

⑤ 指導の改善と実施

目的意識をしっかりとをもって臨んだ職場体験，その後の時間をかけた振り返りと発表資料作り，さらには，発表後の意見交換によって，「感想カード」の記述は，全ての子どもがいずれの評価基準2以上の評価となった。たった1日の体験であったが，子どもは，働くことについて多くのことを学び，そして今後の生活の仕方まで考えることが出来た。

以上のことから，この単元は，中学校に巣立つ6年生にとって大変意義深く，ふさわしい単元であったと考える。

2-2 自己学習力の向上に向けた評価の工夫

2-3 外部への説明責任に向けた評価の工夫

(1) 単元の総括的評価結果

本単元における観点別の総括的評価は、「関心・意欲・態度」については学習活動2と4の総和で，「思考・判断」については学習活動3と6の総和で，「技能・表現」については学習活動4と6の総和で，「知識・理解」は学習活動6の評価結果から行うことにした。

なお，考察に際しては，評価結果3は80%以上相当，2は60%～79%相当，1は59%以下相当の達成状況としてみなすことにした。

① 「関心・意欲・態度」について

観点（評価場面）	評価基準			合計
	3	2	1	

関心・意欲・態度① (学習活動2)	27人	29人	2人	58人
関心・意欲・態度② (学習活動4)	47人	13人	0人	60人
①+②	74人	42人	2人	118人

この結果から、学習活動2においては、評価結果「3」と「2」の子どもを合わせると56人(96%)であった。それは、職業調べで一人調べをしたり、身近で活躍している2人の社会人をお呼びして話していただいたりした結果であると思われる。なお、「1」の子どもが2人いたが、体験に対する意識がなかったわけではなく、職場体験をしようとする目的を書いたり対話したりという学習活動が、表現力の不足からきていると思われるので、この子どもには、国語科などで表現力をつけていく必要があると感じられた。

学習活動4では、評価結果「1」の子どもは1人もおらず、全員が「2」以上であった。とりわけ、「3」の子どもが47人(80%)いたことは注目される。自分でしっかり交渉の練習をして承諾をもらえたこと、一人一人が働くということの目的意識をしっかりもって、職場で多くのことを学びたいという強い意欲をもって体験に臨めたことから考えられる。

このようなため、関心・意欲・態度の発達を全体(①+②)としてみると、評価結果「2」以上が116人(98%)であり、十分な学習効果があったと考える。

② 「思考・判断」について

観点(評価場面)	評価基準			合計
	3	2	1	
思考・判断① (学習活動3-①)	19人	38人	2人	59人
思考・判断② (学習活動6)	54人	5人	0人	59人
①+②	73人	43人	2人	118人

上の表の結果から、学習活動3-①においては、体験したい場所について理由をつけて第2希望まで言うことができた子どもは計57人(97%)で、十分に達成できていた。なお、評価結果「1」の子どもが2人いたが、しかし、一つの職場についてはしっかり理由づけができていた。3つまで理由付けを要求するという教師の欲張りの結果であったと

反省している。

学習活動6においては、全員が評価結果「2」以上であった。中でも、評価結果「3」の子どもが54人（92%）いた。このような結果から、子どもたちは、振り返りの時間に4時間も長い時間をかけたことから、「働く人の苦労や工夫」「働くことの素晴らしさ」「労働の意義」をしっかりとつかめたものと思われる。さらには、体験発表会で全員が発表したことから、情報交換を踏まえ、自分の学びや考えを他と比べながら、そして自分を見つめ直すことができたものと思われる。

このようなため、思考・判断の発達を全体としてみると、評価結果「2」以上が116人（98%）となる。本単元は十分に効果を上げることができたと考える。

③ 「技能・表現」について

観点（評価場面） 評価基準	3	2	1	合計
技能・表現① （学習活動6）	30人	28人	1人	59人
技能・表現② （学習活動4）	31人	26人	3人	60人
①+②	61人	54人	4人	119人

表より、学習活動6では、評価結果「2」以上が58人（98%）であった。この結果から、ほぼ全員の子どもは、はっきりとした目的意識をもって職場体験に取り組み、その成果をしっかりとおさえ、友達に伝えることができたものと思われる。

また、学習活動4においては評価結果「2」以上が57人（95%）であった。普段経験することのない職場での大人との関わりであっても、臆することなく、ほとんどの子どもがあいさつ、返事、言葉遣いの仕方を身に付けたものと思われる。

このようなところから、技能・表現の発達を全体（①+②）としてみると、評価結果「2」以上が115人（97%）であった。十分に満足できる結果であるといえよう。

④ 「知識・理解」について

観点（評価場面） 評価基準	3	2	1	合計
知識・理解① （学習活動6）	45人	14人	0人	59人

表より、学習活動6においては、全員が評価結果「2」以上であった。子ども達は、職場体験やそれを発表したり、あるいは多くの友だちの体験発表を聞くことにより、働いている人の苦勞や工夫、さらには働くことのすばらしさ、働くことの意義をじっくりと考え、仕事への認識をより確かなものにしていったものと思われる。

〈2〉個人内評価結果

次に、A児、B児の二名を事例にしなから、個人内評価の特質について検討することにする。そのため、まず、2人の児童の〈個人評価結果表〉を示すと、次のようである。

〈個人評価結果表〉

		学習活動1の①	学習活動2	学習活動4	学習活動5の①	学習活動6	評定
A児	関・意・態	1	2	2			B
	思考・判断		2	2	2	3	B
	技能・表現			1		2	C
	知識・理解				2	3	B
B児	関・意・態	2	2	3			B
	思考・判断		2	3	3	3	A
	技能・表現			3		3	A
	知識・理解				2	3	B

注：評定は、総括的評価結果に基づき、Aは80%以上相当、Bは60%～79%相当、Cは59%以下相当の達成状況を示している。

① 縦断的評価

A児の評価結果を見ると、前半の学習活動1～4までにおいてはどの観点も2以下の状況にあったが、後半の学習活動5～6においてはいずれも向上の傾向にあることがうかがえる。単元の終末に、自分の学びをしっかりとらせた上で各自の学びや考えを交流し合うことは、消極的で理解にも時間がかかる子どもにとって有効であることが示唆される。なお、評定はB－B－C－Bであった。

一方、B児は、前半の学習活動1～4において、いずれの観点とも3へと次第に伸びており、しかもこのような伸びの傾向は後半の学習活動5～6においても持続され、その結

果評定においてもB-A-A-Bを得ている。職場体験を実践した学習活動4と職場体験発表会をして情報交換や意見交換を行った学習活動6が、B児にとってはとても効果的であった様子がかがえる。

なお、A児と類似の傾向を示す子どもが学年で他に3名、B児のような傾向を示す子どもが学年で他に8名いた。その他、学習活動全般を通じて4観点ともに3で、均等で高い発達的特質が認められ、評定においても4観点ともにAとなっている子どもは学年で計11名いた。

② 横断的評価

A児の「関心・意欲・態度」の発達をみると、1から2へと伸びている。何事にもあまり興味や関心を示さないA児であるが、「働く」ことについて地元で活躍されている2名の社会人の体験を踏まえた話を聞いた結果、興味・関心を示すようになり、その意欲が職場体験の実践にも持続したものと考えられる。「思考・判断」と「知識・理解」は、ともに2から3への伸びを示している。友達の職場体験発表を聞いたり、情報交換や意見交換を行ったことが自分を深く見つめ直し、今後のよりよい生活の仕方を考えるきっかけになったと同時に、働くことについての3つのポイントを確実に理解できたもの判断される。「技能・表現」1から2といった伸びの傾向をみせている。自分の思いや考えを分かりやすく伝えたり、人前で堂々と話したりすることが苦手なA児であったが、体験後のふり返りが十分にできていたことと、発表資料作成時に適切な支援をしたこと、そして友達の発表のよいところを取り入れた結果、体験して学んだことについて自信をもって発表することができ、その結果が評価「2」へと向上したものと思われる。

一方、B児をみると、各観点とも活動を重ねるごとに伸びが見られる。まず、「関心・意欲・態度」は2から3へと向上している。職業調べを行い、社会人の話を聞くという活動で高まった興味・関心が職場体験の実践で最高潮に達したものといえよう。「思考・判断」も2から3へと向上し、その状況が安定して推移している。目的意識をはっきりと持った職場体験の実践の結果、自分を深く見つめ直し今後のよりよい生活の仕方考えるきっかけとなったものと思われる。また、「知識・理解」についても2から3へと伸びている。友達の発表を聞いたり情報交換や意見交換に積極的に関わることで確実に知識・理解を身に付けたものと思われる。

なお、A児のように、活動の終末において急な伸びを示す子どもが学年で他に9名、B児のように体験の実践で伸びを示す子どもが学年で他に25名いた。その他、学習活動全体を通して評価結果が3と高く安定した傾向を示す子どもは学年で計19名いた。